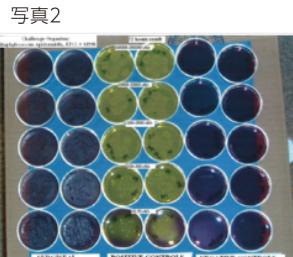
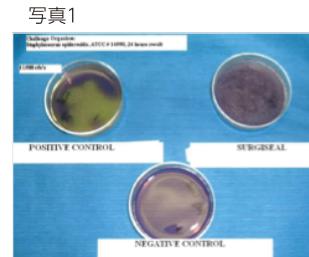


皮膚用接着剤基礎データ

接着剤による菌からのバリア性



皮膚用接着剤の菌からのバリア性実験

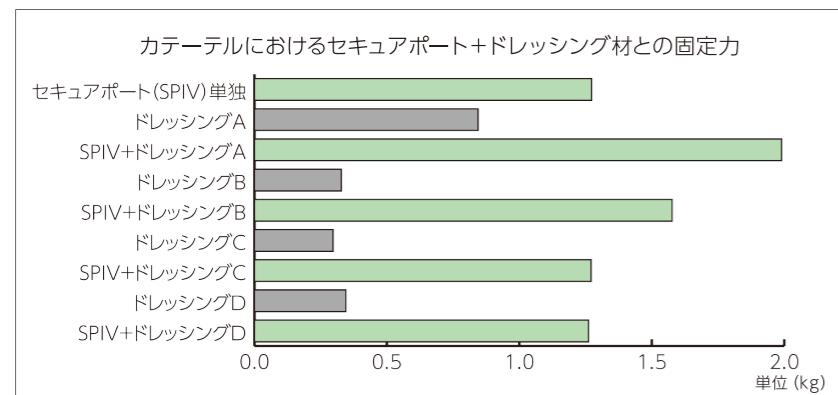
接着剤を塗布したもの、POSITIVE CONTROL用、NEGATIVE CONTROL用の3つの寒天培養器を用意しそれぞれの寒天培養器に表皮ブドウ球菌を散布する。(写真1) なお、紫色の寒天培養器は菌に暴露されると黄色に変色する。

表皮ブドウ球菌を5水準の濃度で寒天培養器にくわえた。

結果

皮膚用接着剤を塗布された紫寒天培養器は、5水準すべての培養器で変色していなかった。(写真2 左) これにより皮膚用接着剤の菌からのバリア性が証明された。

固定に関するデータ



実験方法

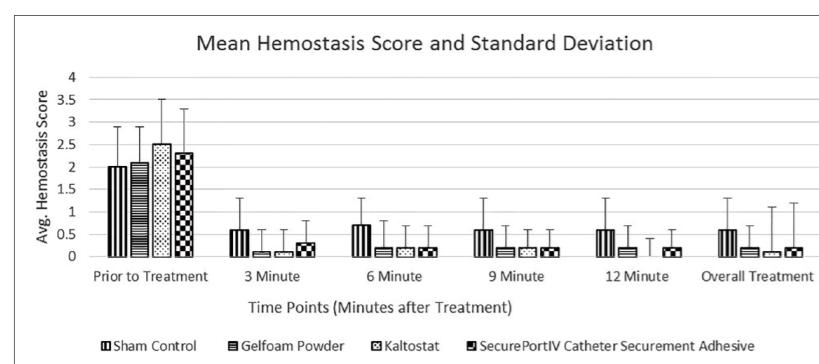
カテーテルを豚の皮膚に最初に固定した後、マーキングを行い30分後にカテーテルの引き抜き強度試験を行った。その際に従来から使用されているカテーテル固定製品と比較するために、各種ドレッシング材との強度試験を行った。

結果

セキュアポートは単独でもドレッシング材より高い強度を示した。またドレッシング材と組み合わせることにより、さらに強くカテーテルを固定できることが証明された。

出典元: An innovative cyanoacrylate device developed to improve the current standard of care for intravascular catheter securement
The Journal of Vascular Access 2020, Vol. 21(3) 293-299

止血に関するデータ



スコア	評価
0 = 無	切開部位からの出血は見られない
1 = 滲み出る	切開部位の端に血は流れていながら、血が確認された
2 = 非常に少ない	切開部位から血液がゆっくりと滴り落ちる
3 = 少し	切開部位から血液がゆっくりと流れれる
4 = 中くらい	切開部位からの血流は確定的
5 = かなり	切開部位からの血液は着実に流れていく

実験方法

豚の皮膚を切開し、血流量をスコア表に基づいて評価した。なお、シアノアクリレートの止血効果を示す為に、比較対象として、既知の止血剤であるゲルフォームパウダー及びカルスタッフと、未処置との比較試験を行った。

結果

シアノアクリレートによる治療前の平均切開出血スコアは 2.3 ± 1.0 であった。シアノアクリレートは、3分、6分、9分、12分の時点での止血を改善し、平均スコアはそれぞれ 0.3 ± 0.5 、 0.2 ± 0.5 、 0.2 ± 0.4 、 0.2 ± 0.4 であった。

3分後と6分後に、シアノアクリレートは、それぞれの「前処理」スコアと比較して、血流を7倍と11倍低下させた。

出典元: Experimental study on the hemostatic effect of cyanoacrylate intended for catheter securement The Journal of Vascular Access 2019, Vol. 20(1) 79-86

皮膚用接着剤シリーズ

皮膚用接着剤とは創部からの細菌の侵入を防ぎ、創部閉鎖、医療器具固定、防水性に優れた医療材料です



SecurePortIV™
Catheter Securement Adhesive
Highly Purified Medical Cyanoacrylate

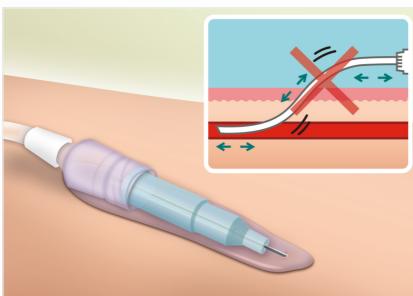
Surgiseal
TOPICAL SKIN ADHESIVE
2-Octyl Cyanoacrylate

皮膚用接着剤は臨床で起こる様々な問題

皮膚用接着剤は、
様々な可能性を持っている
医療用材料です

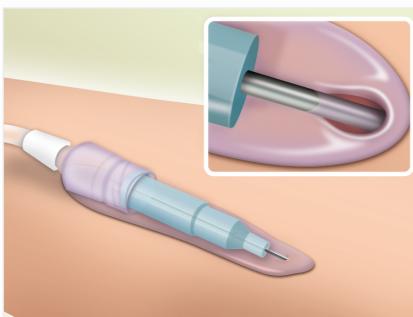
皮膚用接着剤は、患者様の病態、年齢に関係なく使用する事が出来る医療材料です。創傷閉鎖材料なしで素早く閉鎖出来るだけでなく、医療器具の固定、外部からの細菌、水の侵入を防ぐことが出来ます。

また、テープなどによる剥れ、剥がれがない為病棟の管理の簡便化が行えます。



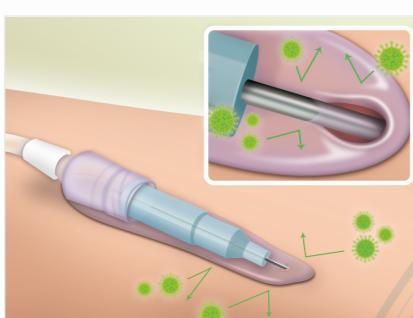
カテーテルの微細な動き、移動、抜けを防ぐ

SecurePortIV カテーテル固定用接着剤は、カテーテル挿入部にフィルムを形成し、カテーテルを皮膚に保持し、カテーテルの移動及びそれを防ぎます。
また、カテーテルのハブ部を固定する事により、縫合固定やカテーテル固定用パッチを使用する必要はありません。



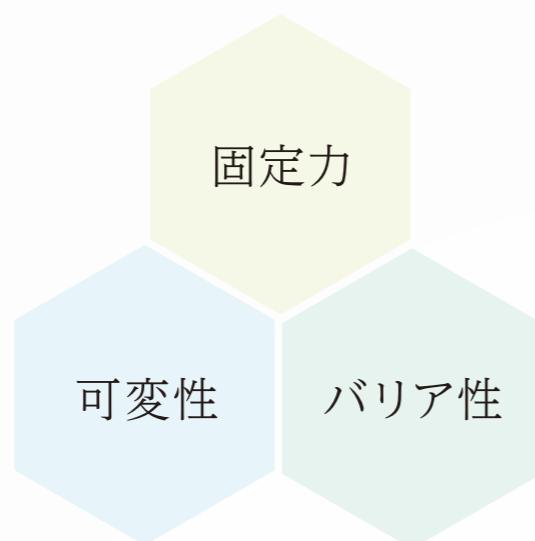
カテーテル挿入部からの出血と滲出液を抑える

カテーテル挿入部にフィルムを形成する事により、挿入部からの出血や滲出液を止める事が出来ます。また、カテーテルの微細な動き（マイクロモーション）を抑制する事により、マイクロモーションによる出血を少なくすることが出来ます。



カテーテル関連の感染症に 関係するバクテリアから保護する

SecurePortIV カテーテル固定用接着剤は、カテーテル挿入部にフィルムを形成し、外部からの細菌や微生物の侵入を防ぎます。



を解決することが出来る医療用材料です

SecurePortIV™は、

カテーテル挿入後の多くの問題を1つで解決します

- 皮膚常在菌のカテーテル挿入部位からの防御
- 新生児、小児の患者様でも使用できます
- カテーテルの位置ずれ防止
- カテーテル マイクロモーションの抑制
- カテーテルの抜け防止
- 出血によるドレッシング材交換回数 減少
- シャワー時における水滴からの汚染予防
- 挿入部状態の確認が容易
- テープ以外でのカテーテル固定が可能
- 機械的静脈炎の発生予防



届出番号 13B1X001600000018

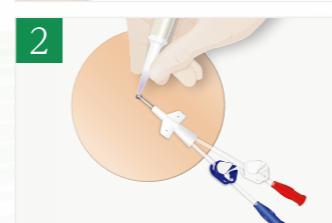
製品名	製品コード
セキュアポートIV	AZSP 015V50
容量	入数
0.15ml	1箱 50個入り
主成分	
2-オクチルシアノアクリレート・ n-ブチルシアノアクリレート	

使用方法



先端を天井に向けて、患者から離れたところに向けてください。
アプリケーターの底部を上向きに押します。

SecurePortIV™を塗布する前に、消毒液が乾燥しているか、また出血がすべて止まっていることを確認してください。



先端の凹凸部分を押して接着剤をカテーテルの挿入部に1-2滴垂らします。次に、カテーテルのハブ部にも接着剤を数滴垂らします。

縫合糸がある場合は、縫合部位の上に接着剤を塗布することができます。



接着剤を塗布したら、すぐに透明なフィルムドレッシングを貼って下さい。乾燥する必要はありません。

*CHG付きのフィルムドレッシングやCHG付き保護パッチをご使用の場合は、30秒ほど待ってからフィルムドレッシングを貼って下さい。接着剤のひび割れや剥がれが生じるおそれがあります。

接着剤除去方法

接着剤の除去は5~7日かけて自然に剥がれます。

早期の除去は、接着剤の粘着力を飽和させるために30秒から1分間、接着剤リムーバーパッドで静かに押さえます。

これにより、接着剤が柔らかくなり、デバイスを簡単に取り外すことができます。

皮膚への刺激を避けるために、接着剤リムーバーで患部をこすらないでください。

日腸工業では2種類のタイプの皮膚用接着剤を取り扱っております

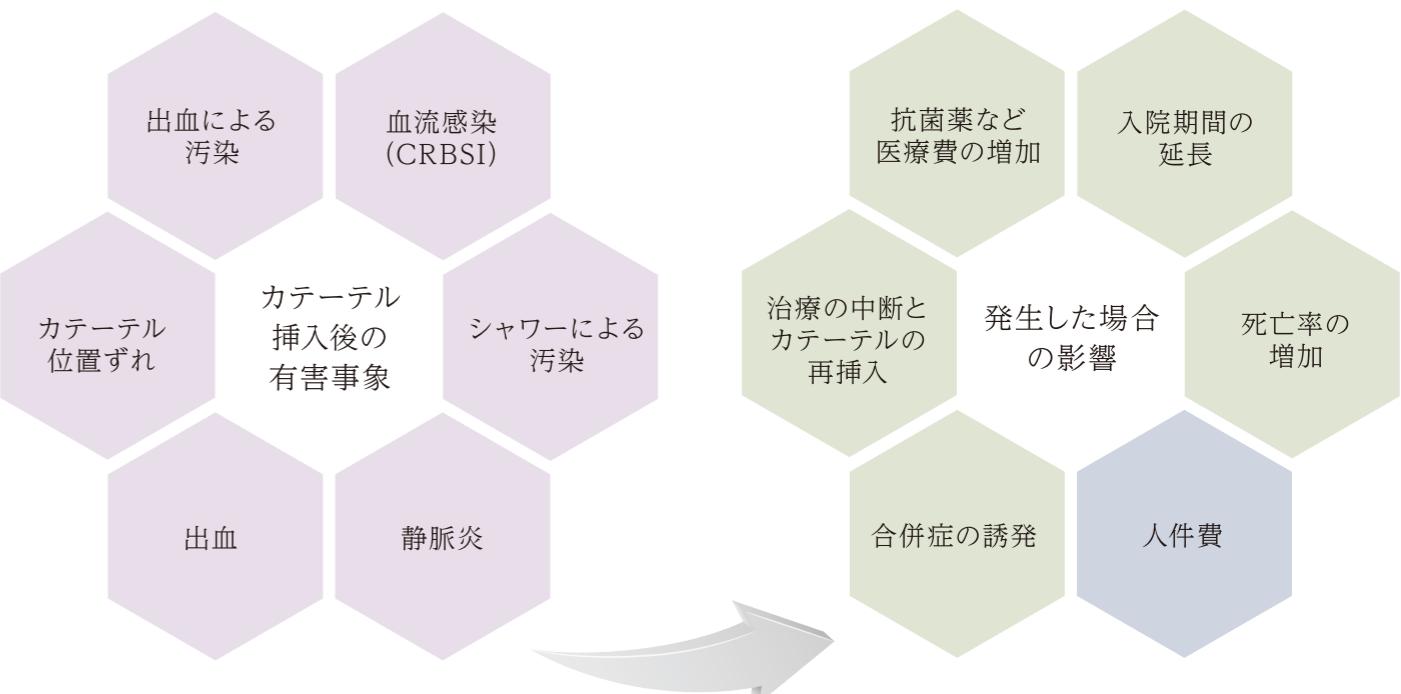
血管内留置カテーテル管理における様々な有害事象

セキュアポートIV カテーテル固定用接着剤

SecurePortIV™カテーテル固定用接着剤は、血管アクセスデバイスの挿入部にフィルムを形成して、外部からの細菌の侵入を防ぎ、カテーテルを皮膚に保持し、カテーテルの運動、移動および外れを軽減します。新生児、小児の患者様でも使用する事ができます。

- カテーテル由来血流感染に関する細菌の侵入を防ぐ
- カテーテル挿入部からの出血を抑え、血液による創部の汚染を予防する
- カテーテルの微細な動き、移動、抜けを抑制する

カテーテルの固定に



サージシール 創傷治療用接着剤

局所皮膚用接着剤「サージシール」は強度と柔軟性との最適なバランスを有しています。切開創や傷口の修復のための5-0以下の糸での縫合の代わりに使用でき、抜糸が不要となります。また皮膚上にフィルムを形成することにより、傷の修復の時間短縮ができ、防水性を有し、細菌の侵入を防ぎます。



幅広い塗布に



細かい、狭小部の塗布に



発生した場合の影響

血管内留置カテーテルの有害事象の中で、特にカテーテル由来血流感染(CRBSI)を発症してしまうと、治療の中断とカテーテルの再挿入や、抗菌薬などの医療費の増加、入院期間の延長などが発生し、患者さんにとっても医療施設にとっても影響があります。しかし、ほとんどの血流感染は予防する事が可能で、それにより患者様の早期退院、病院様の医療費削減が出来るとの報告があります。

血管留置カテーテルの技術の進歩によって挿入の失敗、合併症は大きく軽減されてきましたが、カテーテル挿入後の患者様の管理における有害事象は未だ解決の途上にあります。

留置後の管理によって患者様だけでなく病院、Dr.、看護師様にも多大な負担がかかります。

セキュアポートは新たなカテーテル固定用の医療材料として、患者様、現場で働くDr.、看護師様の管理軽減にお役立ていただける製品となります。

